

インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト
現地からのお便り（2019年7月～2020年6月）

2020年8月
コンサベーション・インターナショナル

※本プロジェクトは、インドの現地 NGO Applied Environmental Research Foundation (AERF) が実施しています。

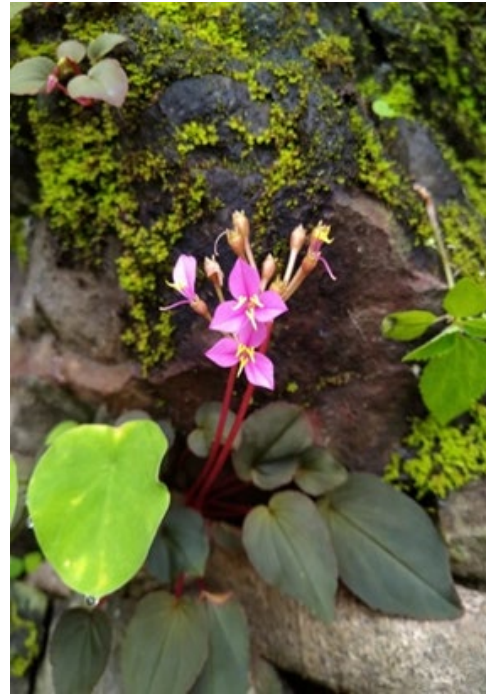


Talwade 村のコミュニティ保有林

絶滅の恐れのある野生動植物のマッピング

Talwade 村のコミュニティ保全林にて、昨年度は 2 回にわたって生態調査を行い、絶滅の恐れのある野生動植物のマッピングを行いました。このコミュニティ保有林は、保全契約に基づいて地域住民たちが保全活動を続けてきた場所です。調査の結果、希少種や絶滅危惧種に指定されている野生動植物、トゥーナ (*Toona ciliata*) やブリデリア (*Bridelia*) など在来の植物が多数生息していることが確認されました。また、モンスーンの季節には、セロペギアなど希少種の植物も多く見つけることができました。モンスーン明けにはカメラトラップを使用した野生動物のマッピングも実施する予定です。

今回の調査は、保全活動によって生息地を守ることが、地域の貴重な生物多様性の保全に繋がっていることを実証するよい機会となりました。



生態調査で発見した野草。左上は IUCN キョウチクトウ科の *Ceropegia evansii*。左下と右の野草は現在名称確認中



肉食野生動物の去った痕跡



セイザンコウのほら穴

バリューチェーンの見直し



AERF チームは、これまで国際的な FAIRWILD 認証を取得してきましたが、単に認証を取得するだけでは、認証取得の機会を十分に生かし切れていないことに近年気づき始めました。そこでバリューチェーンの見直しを行い、生産者にとってより魅力のあるビジネスモデルの検討を行いました。中でも、最も大きな作業となったのが、中間業者との販売交渉です。

今までは中間業者が FAIRWILD 認証の農産物を製品化直前の粉の状態であ価で買い取り、彼らが製品化（パッケージ化）を行って高値で輸出していました。しかしそれでは FAIRWILD 認証の恩恵を中間業者に持っていかれ、農民たちには利益が還元されない構造となっていました。そのため AERF チームが中間業者との間に入り、コミュニティからは製品化された生産品をより多く出荷する交渉を行いました。中間業者との交渉には 6 カ月の時間がかかりましたが、結果として、AERF が設立した Nature Connect 社は、2019 年 11 月までに、FAIRWILD の承認を受けた 3900 キロのハリタキの粉末と 1200 キロのビヒタキの粉末をインドの Phalada Agro 社へ、1200 キロのトリファラの粉末（アムラ、ハリタキ、ビヒタキのハーブが配合されたもの）をイギリスの Pukka Herbs 社へ販売することができました。製品化した状態で販売することで、1 キロ当たりの販売価格が 4 倍にも向上しました。

より多くの収入がもたらされるようになり、農民の収入が向上したほか、Nature Connect 社の雇用を増やすことができ、農民は粉碎機を使う新しい仕事にも興味深く取り組んでいます。



（左上）ハリタキの殻を乾燥 （右上）乾燥したハリタキの殻を製粉
（左下）ハリタキの粉末をパッケージ化 （右下）製品をトラックで出荷

健やかな森を取り戻すための植林活動

西ガーツ山脈北部の森林は老朽化やカシューナッツプランテーション開発により森林劣化が進み、原生林の状態に残っている森林は多くありません。そのため、AERF チームはこれ以上の森林劣化を防ぐため、Ratnagiri 県の Sadabali にあるフィールドステーションで毎年在来種や希少種、絶滅危惧種の苗木を約 5000 本育成し、保全契約に基づいて生産林を所有するコミュニティと協力して植林活動を行ってきました。昨年は Kalambaste 村のコミュニティ保有林で 18 種の苗木を計 350 本植林しました。



Sadabali のフィールドステーションの苗木



Kalambaste 村で行われた植林活動